

社団法人泉佐野青年会議所との意見交換会

平成25年4月に施行された、「泉佐野市議会基本条例」の第6条に定めている、市民との「意見交換会」の実施に則り、去る10月17日（木）に社団法人泉佐野青年会議所（JC）の代表の皆様との意見交換会を実施しました。大きなテーマとして、（1）まちづくりについて、（2）教育について、（3）市議会について、を議題として挙げさせていただきましたが、議論は教育問題が中心となりました。

泉佐野青年会議所の皆様も「泉佐野市をよくするためには、まず、人を育てることである」をテーマの一つとして掲げており、特に小学生の子ども達に「母校愛・地域愛」を抱かせるためにはどのようなことを実施したらよいかなどを真摯に議論されています。彼らの考えを集約した企画が今回実施された、各小学校から代表児童を選抜し、学校対抗によるリレー大会などの、第1回小学校対抗大運動会「SANOリンピック」でした。

スポーツを通じて母校に対する思いを強く抱ける最善の企画であると私達議員も大いに賛同し、また、成功することを祈念しました。

さて、そういう素晴らしいイベント等を企画し、実行しようとしている青年会議所の皆様が共通した意見として感じているのが教育行政の閉塞感であります。特に指摘されたのが、教育委員会と学校現場との考え方の相違です。例えば、今回の「SANOリンピック」の企画にあたり、チラシの配布等、教育委員会を通じて各小学校に依頼したところ、積極的に協力する小学校もあればそうでない小学校もあったそうです。また、「子ども達は親の鏡」であり、泉佐野市の子ども達の教育には保護者の協力が不可欠であることから、道徳教育の強化の推進についても意見交換をしました。

当日は、多くの貴重なご意見を頂戴し、その中でも私達議会側としても課題だと感じたことをまとめると以下の3点です。

1. 後援した事業に対して、もっと積極的に後押しを図るべきではないか。行政や他のイベント等との橋渡し等さらに効果を上げるために、仲介役を行政が担うことができるのではないか。また、イベント等の告知に関しては、市報や市HPへの掲載等、さらに充実を図る必要があるのではないか。
2. 教育現場の閉鎖性は現代の大きな課題である。教育現場も変わる必要があるが、保護者や市民も意識を変えていかなければならない。

3. 教育だけでなく、行政に責任を求めすぎる社会になりつつある。こういった意識を変えていくことは市民の側からも行政の側からも取り組んでいかなければならない。

街の中で実際に活動をされている団体だからこそ得られる課題や提案など、大変貴重なご意見をいただくことができました。

泉佐野市議会では各種団体様からの意見交換会のお申し込みも随時受け付けております。詳しくは市議会HPをご覧くださいか、議会事務局へお問い合わせください。